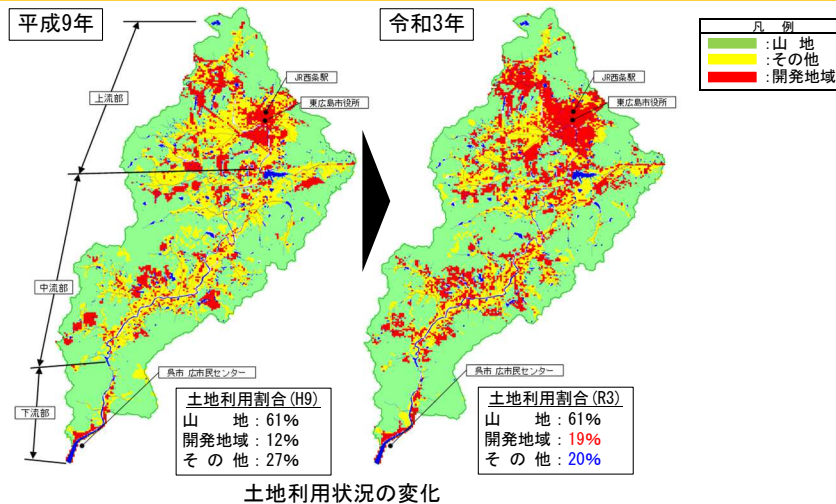


## 流域の概要

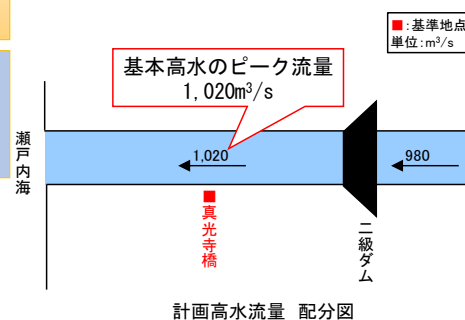
- 黒瀬川は、東広島市の西条盆地、黒瀬盆地、呉市東部の市街地を貫流し、瀬戸内海に注ぐ二級河川で、流路延長は50.6km、流域面積は238.8km<sup>2</sup>である。
- 上流部には東広島市の市街地が広がっており、JR西条駅や東広島市役所周辺の市街化が進んでいる。



## 黒瀬川水系の既定計画

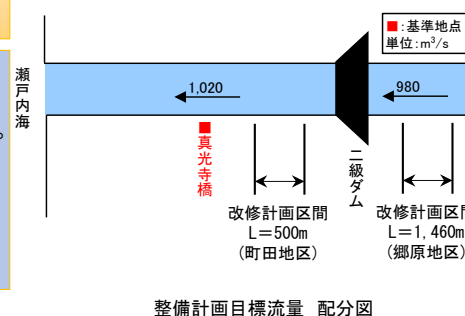
### 河川整備基本方針（平成14年3月策定）の概要

- 計画規模は年超過確率1/100（雨量確率）
- 基本高水のピーク流量を基準地点真光寺橋において1,020m<sup>3</sup>/sとし、これを河道へ配分する。



### 河川整備計画（平成14年5月策定）の概要

- 対象期間：概ね30年
- 河川整備計画では平成11年6月洪水の実績洪水による整備メニューを計画している。
- 河川整備計画の整備内容は、暫定的な整備を実施せず、将来的な整備を行うこととしており、河川整備基本方針で定めた計画高水流量を河川整備計画目標流量としている。（町田工区、郷原工区）



## 平成30年7月豪雨

- 平成30年7月豪雨では、本・支川の溢水・越水や外水位の上昇に伴う内水被害による甚大な被害が発生（浸水家屋522戸以上、浸水面積59ha）
- 発生被害のうち、土石流その他を除き、外水被害（浸水家屋91戸、浸水面積13ha）よりも内水被害（浸水家屋151戸、浸水面積22ha）の方が被害規模が大きい。
- 黒瀬川の特長として、外水対策だけでなく内水対策も含めた、流域全体で協働して治水安全度を高める流域治水が必要

### 平成30年7月豪雨災害の被害数量（水害統計より）

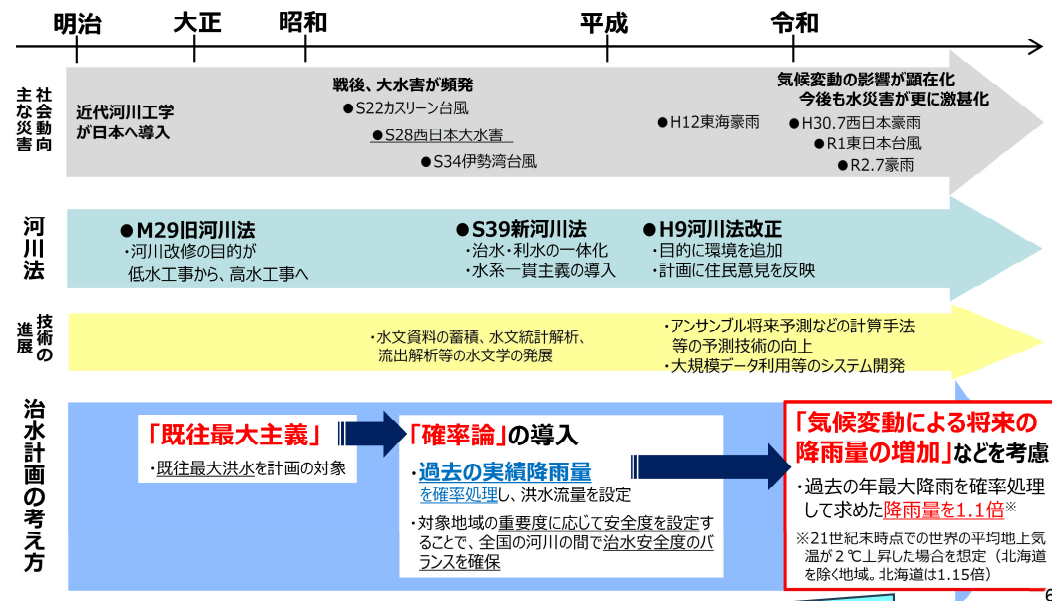
月日	水害名 沿岸名	河川名 海岸名	市町村	水害原因	成因	浸水面積 (ha)			建物被害 (棟)			
						農地	宅地 その他	計	全壊流失	半壊 床上浸水	床下浸水	計
H30. 6. 26 ～7. 9	黒瀬川	黒瀬川	呉市	内水	梅雨前線豪雨 及び台風7号	0.00	6.46	6.46	0	15	41	56
						0.00	6.46	6.46	0	10	17	27
						3.20	15.02	18.22	5	53	41	99
						0.38	3.52	3.91	1	28	20	49
						5.05	6.58	11.62	2	45	19	66
						0.00	1.46	1.46	2	33	44	79
						0.00	0.10	0.10	2	2	2	6
						0.00	1.47	1.47	1	2	1	4
						0.52	0.38	0.91	0	4	1	5
						0.00	0.21	0.21	0	3	8	11
						0.36	0.52	0.88	4	7	4	15
						0.00	0.06	0.06	0	1	1	2
						0.00	0.10	0.10	0	1	1	2
						0.00	0.20	0.20	0	6	4	9
						0.00	3.41	3.41	0	18	3	21
						0.00	0.12	0.12	1	4	1	6
						0.00	0.09	0.09	0	1	3	4
						0.00	0.28	0.28	1	4	4	9
						0.10	0.26	0.37	0	1	1	2
						0.00	0.51	0.51	0	3	3	6
						0.00	0.19	0.19	0	2	6	8
						0.00	0.21	0.21	0	2	8	10
						0.00	0.47	0.47	0	4	4	8
						0.00	0.24	0.24	0	4	5	9
						0.00	0.02	0.02	0	1	0	1
						0.00	0.04	0.04	0	0	1	1
						0.00	0.86	0.86	0	2	0	2
0.00	0.19	0.19	0	2	3	5						
0.00	0.01	0.01	0	0	0	1						
計						9.62	49.44	59.06	19	266	247	531
内水						5.65	16.65	22.69	2	82	67	151
無堤防浸水						0.31	11.80	12.10	1	48	47	95
土石流等その他						3.67	21.00	24.67	16	126	133	418

# (参考) 気候変動を踏まえた河川整備基本方針の見直し状況

- 気候変動への対応は全国的に喫緊の課題であり、国土交通省では「気候変動を踏まえた治水計画のあり方」提言の改訂(R3.4)以降、全国の一級水系を対象に、気候変動を踏まえた河川整備基本方針の見直し検討が行われている。⇒38/109水系が変更済み又は審議中(R7.9時点)
- 広島県内の二級水系では、本川水系の河川整備基本方針を変更済み(R5.3)であり、その他水系についても順次変更検討中。

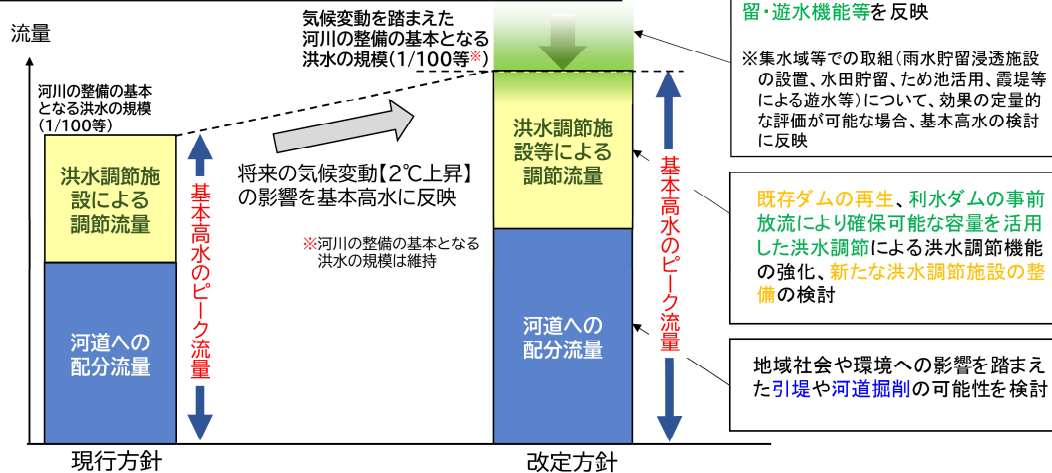
## 気候変動を踏まえた計画変更の考え方

〇「過去の実績降雨を用いて確率処理を行い、所要の安全度を確保する治水計画」から、「気候変動の影響による将来の降雨量の増加も考慮した治水計画」へと転換。



中国地方の一級水系※の河川整備基本方針見直しにおいても、降雨量変化倍率1.1を採用  
※太田川(広島県)、旭川及び吉井川(岡山県)

## 「気候変動」と「流域治水」の新たな視点を踏まえ改定

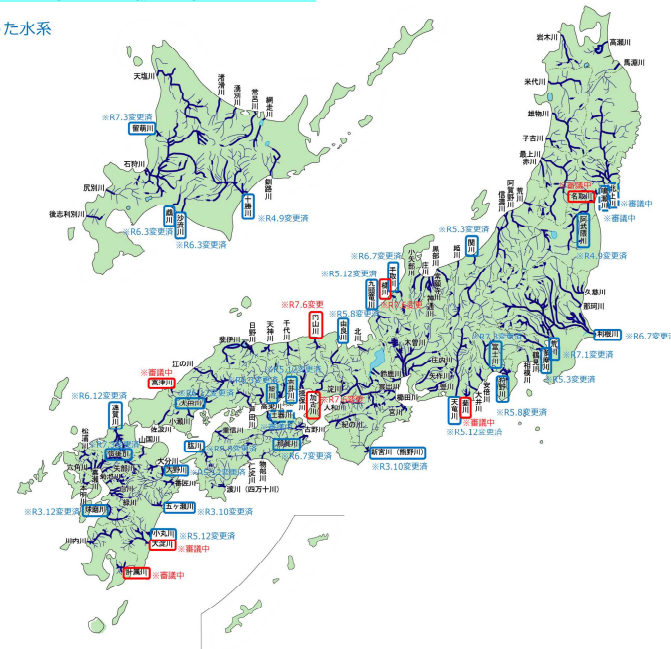


出典：「河川整備基本方針の変更の考え方について、国土交通省 水管理・国土保全局」

## 河川整備基本方針の変更状況(全国の一級水系) R7.9.5時点

気候変動を踏まえた基本方針の見直しを行った水系または審議を行っている水系：計38水系

※ 一級水系数：109



出典：「第155回 河川整備基本方針検討小委員会資料、国土交通省 水管理・国土保全局」

## 河川整備基本方針の変更状況(広島県内の二級水系) R7.11時点

No.	水系名	河川整備基本方針		計画規模	流域面積(km <sup>2</sup> )	流出解析手法	備考
		策定	変更				
1	黒瀬川	H14.3	R8予定	1/100	238.8	貯留関数法	気候変動を踏まえ、流域分担量を考慮した計画に変更予定
2	沼田川	H14.12		1/100	540.0	貯留関数法	
3	尾崎川	H14.3		1/30	4.1	合成合理式法	
4	賀茂川	H14.3		1/70	75.8	貯留関数法	
5	八幡川	H13.9		1/70	80.4	特性曲線法	
6	手城川	H14.8		1/50	23.0	特性曲線法	
7	永慶寺川	H15.7		1/50	15.8	合成合理式法	
8	瀬野川	H15.7		1/100	122.2	貯留関数法	
9	岡ノ下川	H15.7		1/70	11.5	合理式法	
10	本川	H18.5	R5.3	1/50	7.4	貯留関数法(変更前は特性曲線法)	流域分担量を考慮した高水処理計画に変更
11	羽原川	H19.2		1/50	13.9	合理式法	
12	二河川	H18.5		1/50	48.7	合理式法	
13	堺川	H25.12		1/50	11.4	特性曲線法	
14	大河原川	H30.3		1/30	2.0	合理式法	
15	本郷川	H30.8		1/50	30.4	合理式法	
16	藤井川	H30.8		1/50	59.5	貯留関数法	
17	野呂川	R2.12		1/50	43.2	貯留関数法	
18	三津大川	R3.7		1/30	25.3	貯留関数法	



- 広島県では、特定都市河川浸水被害対策法に基づき、呉市及び東広島市を流れる二級河川黒瀬川水系黒瀬川等について、令和8年4月1日に特定都市河川に指定する。
- 黒瀬川流域においては、流域の地形特性や社会特性の特徴・課題に対応するため流域治水の取組を加速する必要がある、その手法として特定都市河川に指定することにより、法的枠組みを活用して流域治水の実効性を高め、早期に地域の治水安全度を向上させる。

